

日本声楽発声学会

2026 年度 夏季研修会

2026 年（令和 8 年） 8 月 23 日（日）

9：55～16：35（受付開始 9：30）

東京藝術大学 音楽学部

大講義室（5-109）・第6ホール

（JR 上野駅公園口より徒歩 10 分）



↑こちらのQRコードよりアンケートにお答えください（入力期限8月31日）

（お願い）

- ① 携帯電話等音の出るものはマナーモードに設定するか電源をお切りください。
- ② 関係者以外の録音、録画、写真撮影は固くお断りいたします。
（本学会では記録・ネット配信用として録音・録画をいたしますが、それ以外は個人情報および著作権保護のため、厳禁いたします。違反の場合は機材等を学会でお預かりすることがあります。お顔など撮影不可の方は受付にお申し出ください。）
- ③ 体調管理はご自身の責任で行ってください。体調不良の場合は無理をせず、事務局スタッフや理事にお知らせください。

9:55 開会

◎会長挨拶 佐々木 正利（会長）

10:00～12:00 5-109 大講義室

◎A 講座 現代日本の作曲家シリーズ XIV

10:00～11:45 講演

11:45～12:00 質疑応答

講師：三宅 悠太 司会：上杉 清仁（理事）

演題：W.A. Mozart 《Ave verum corpus》の芸術性と演奏探究 ―作曲家の視点から―

概要：モーツァルト最晩年の傑作《Ave verum corpus》は、わずか46小節という小品でありながら、精緻な作曲技法によって、テキストと音楽との緊密な結び付きが一つの作品として結晶しています。本講座では、その楽曲構造と演奏解釈について作曲家の視点から考察するとともに、その構成原理に着想を得て作曲した、今年度のNHK全国学校音楽コンクール小学校の部課題曲《どっきん せみさん》との関連についても解説します。

三宅 悠太 Miyake, Yuta

作曲家。東京都出身。東京藝術大学音楽学部作曲科をアカンサス音楽賞および同声会賞を受賞して卒業後、同大学院音楽研究科修士課程作曲専攻修了、音楽学部教育研究助手を3年間務める。学部在学中に《失なはれた夜に》で奏楽堂日本歌曲コンクール第12回作曲部門第1位、大学院在学中に《打楽器独奏とオーケストラの為の「響奏」》で第79回日本音楽コンクール作曲部門第1位、併せて岩谷賞（聴衆賞）および明治安田賞受賞。管弦楽、室内楽、舞台音楽、合唱、音楽教材など多岐に渡る作編曲を手がけ、これまでに数多くのソリストや演奏団体、学校、出版社等からの委嘱により作品を作曲。2015年には東京混声合唱団委嘱作品として敗戦75年に際したシアターピース《Rebirth》を作曲、2020年には砺波市文化会館委嘱作品《いのちへのオマージュ》を作曲しオーケストラ・アンサンブル金沢と公募合唱団による初演が絶賛されたほか、NHK全国学校音楽コンクール課題曲を二度手がけるなど（第83回高校の部「次元」2016／第93回小学校の部「どっきん せみさん」2026）、近年は合唱分野の委嘱作品を数多く作曲し国内外で演奏されている。作編曲活動の傍ら、全国各地より招聘され講習会講師や講演、客演指揮、各種コンクール審査員等を務めている。また、教育芸術社刊行の小中高すべての音楽科教科書の著者を務めるなど、音楽教育分野にも力を注いでいる。これまでに作曲を浦田健次郎、塚本一実、小山薫、土田英介、野平一郎の各氏に師事。桐朋学園大学、武蔵野音楽大学、文教大学、聖心女子大学、聖徳大学の講師を歴任。現在、エリザベト音楽大学、都立総合芸術高等学校、各講師。日本音楽教育学会会員。全日本合唱連盟外部理事。（2026年5月現在）



12:00～13:00 昼食・休憩

13:00~14:40 5-109 大講義室

◎B講座 音声生理学講座

13:00~14:20 講演

14:20~14:40 質疑応答

講師：高橋 純（理事）、竹田 数章（理事） 司会：三枝 英人（理事）

演題：声を『見る』ための音声学・音声生理・音響分析入門

概要：本研修では、音を振動と波として捉える基礎から、波形、周波数、倍音、FFT、スペクトログラムの見方までを分かりやすく解説する。さらに、声帯で生じた喉頭原音が声道で共鳴・調音されて歌声になる過程を、ソース・フィルター理論、声帯映像、声道模型、シンガーズフォルマントの事例を通して学ぶ。後半は参加者の声をリアルタイムで可視化し、母音、音高、声量、ビブラートによる変化を観察する。耳鼻咽喉科医の解説も交える。（高橋）

喉頭原音の生成にかかわる喉頭の解剖と生理について述べる。喉頭ファイバーならびに喉頭ストロボスコープを用いて、発声時の喉頭・声帯の状態、声道での喉頭の位置などを供覧する。（竹田）



高橋 純 Takahashi, Jun

京都市立芸術大学大学院音楽研究科博士後期課程修了。博士（音楽）。声楽家として演奏活動を行う一方、歌声の音響特性や発声時の身体運動に関する科学研究に取り組んでおり、その成果はNHKなどのメディアでも紹介されている。オペラでは、《ドン・ジョヴァンニ》タイトルロール、《フィガロの結婚》フィガロ、《愛の妙薬》ベルコーレ、《夕鶴》運ずなどを演じる。宗教曲では、ベートーヴェン《第九》、モーツァルト、F.v. スッペ、M. デュリュフレの各《レクイエム》などのソリストを務める。日本演奏連盟・文化庁主催「リサイタル・シリーズ OSAKA」に出演。現在、大阪芸術大学准教授、スイス・ローザンヌ高等音楽院研究員、京都市

立芸術大学および大阪医療大学講師。日本声楽発声学会理事、関西歌曲研究会理事。日本音響学会、日本音楽知覚認知学会会員。

竹田 数章 Takeda, Kazuaki

仙川耳鼻咽喉科院長。日本医科大学大学院博士課程卒業。医学博士。現在仙川耳鼻咽喉科院長。元桐朋学園・洗足学園非常勤講師。音声生理学や臨床音声学の講義を行う。文化庁能楽養成会（森田流笛方）研修終了。音声生理学を米山文明に師事、Atem-Tonus-Ton（呼吸一筋緊張・体の使い方—音・声）呼吸法をマリア・ヘッラーと共同研究。監訳書に『ヴォイス・ケア・ブック 声を使うすべての人のために』（ガーフィールド・デイヴィス&アンソニー・ヤーン著、音楽之友社刊）、『発声ビジュアルガイド』（セオドア・ダイモン著、音楽之友社刊）。ONTOMO MOOK『人生をより豊かにする音楽と医学—のど、脳、身体の機能から探る』（音楽之友社刊）。日本声楽発声学会理事。日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医。



15:00～16:30 第6ホール

◎C 講座 特別講演

1. Plant Music とは (15 分)
2. Performance Demonstration
植物音楽と声の実演 (20 分)
3. Voice Resonance Workshop
声と植物音楽の共鳴体験 (25 分)
4. Q & A・ディスカッション (30 分)

講師：垣内 大樹 Kackey@dabigtree 司会：佐々木 正利（会長）

演題：Plant Music×Voice Resonance 植物音楽と声の共鳴
～Plant Music が拓く発声・表現・教育・研究の可能性～



概要：本講演では、Plant Music を用いた実演と参加型ワークショップを通して、「植物音楽と声の共鳴」を体験的に探究する。

垣内大樹 Kakiuchi, Taiki

Kackey@dabigtree カッキー・アット・ダ・ビッグトゥリー。シンガー、ジャンベ奏者、作曲家。大学在学中にヴォーカリストとして音楽活動を始め、2026 年で歌手活動 30 年を迎える。大地に根ざすような響きを持つ自身の声を「Earthy Voice」と位置づけ、歌、即興ヴォイス、ジャンベを軸に国内外で表現活動を展開している。植物の生体電気信号をリアルタイムで音楽へ変換する「植物音楽 (Plant Music)」との出会いをきっかけに、人間が一方向的に演奏するのではなく、植物が生み出す予測不能な音に耳を澄ませ、声で応答する即興表現を探究。Plant Music 公式アーティストとして、植物音楽と人の声が相互に影響し合う音楽体験を、コンサートやワークショップを通して実践している。2024 年、モスクワ国際アカペラフェスティバルにて Audience Award 受賞。2025 年大阪・関西万博では、サウジアラビア王国パビリオンに 6 週間にわたり出演。インド、ネパール、マレーシア、ロシアなど海外でも演奏を行うほか、高野山大師教会、住吉大社、伊弉諾神宮などで奉納演奏を行ってきた。近年は、複数の声が即興的に重なり合う参加型プロジェクト「Voice Gathering」や、声と植物音楽による体験型セッションにも取り組む。音楽・教育・研究の領域を横断しながら、植物音楽という新しい音楽的インターフェースと人間の声との関係、即興・発声・表現の可能性を探究している。

Web サイト <https://kackey.info>

メールアドレス info@kackey.info



16:30

◎閉会挨拶：池田 京子（副会長）

表紙の QR コードを読み込み来場者アンケートへのご協力をお願いいたします。